

「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会委員発言要旨  
—地域づくり部会—

開催日：平成22年7月13日（火）10：00～12：00

場所：トキハ会館 カトレア

出席委員：宇津宮部会長、桑野副部会長、小方委員、金丸委員  
佐藤委員、荷宮委員、橋本委員、和田委員

テーマ1 長期総合計画「安心・活力・発展プラン2005」の  
評価と課題について

〔議事概要〕

(1) 計画期間の前半を振り返って

- ・国際交流は、これまで先進的な取組をしたかもしれないが、指標の実績が上がっていない。留学生の中には、日本語の習得等の難しさから、地域に馴染めず、交流を行わないまま、外には出ず狭い社会の中で大学生生活を終えてしまう学生もいるのではないか。
- ・留学生のボランティア利用が少ないが、その理由を分析し、どのようにしたら増加するのか研究すべき。
- ・海外からブルーツーリズムの仕組みを学びに来たり、APU と連携して農村生活の交流が行われているが、このような活動が数字として表れていないのではないか。
- ・古民家を活用した交流活動等、起業等を行っている人がかなりいる。地域は活性化しているので、何とかこれを指標化できないか。

(2) 新たな政策・施策課題について

- ・県内で活動している外国人ガイドは、積極的に外国人観光客を呼び込んでいる。留学生にも協力してもらい、県内の観光地でガイドとして活躍してもらえれば、外国人観光客の増加に期待できるのでは。
- ・環境に対する意識の変化に応じて、レンタカーにハイブリッド車を導入したり、公共交通の利用を促すなど、「環境に配慮した観光地」といった概念がこれから大切になる。そういった記述も必要では。
- ・宮崎県で発生した口蹄疫は、観光に大きな影響を及ぼした。「観光危機管理」という観点から、同様な事案が発生した場合を想定し、対応策を考え、周知しておくことが重要。

(3) 今後の方向性について

- ・県外で大分の宣伝をした際、大分へは、どこから行くのか、どこで大分の観光パンフレットを入手できるのか皆知らなかった。高速道路無料化等で交通体系が変わっており、県外事務所を活用してもっと中心部でPRすべきでは。
- ・東京では、大分県の食やB級グルメ等宣伝されておらず、大分に来たくなくなるような情報発信が必要。
- ・都市部でのイベントや、アンテナショップで、観光地図の配付等による情報発信がもっとスムーズにできれば良いのでは。
- ・大分県は真竹が有名なのに、観光に充分活かしてきれていない。真竹の食文化や工芸、音楽等を、アジアの竹文化として世界に向けて発信してはどうか。
- ・まだ発掘されていない地域資源に目を向け、新たな観光資源としたり、地場産業を活用した産業観光や、温泉や検診を利用したメディカルツーリズムにも取り組むべき。